

令和7年度 研究集会

No.	研究課題名	研究代表者	所属機関	所属部署	職名	分野	受入責任教員等	開催日 (予定)	開催場所
1	スボラディック E 層研究集会	細川 敬祐	電気通信大学	大学院情報理工学研究科	教授	宙空圏	江尻 省	2005 年 9 月もしくは 10 月	国立極地研究所 (他研究会と共催の場合は電気通信大学)
2	中間圏・熱圏・電離圏 (MTI) 研究集会	高橋 透	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所	電子航法研究所	主任研究員	宙空圏	西山 尚典	令和7年9月の3日間程度	電気通信大学
3	PANSY研究集会	富川 喜弘	国立極地研究所	先端研究推進系	准教授	宙空圏	堤雅基・富川喜弘・橋本大志	2026年3月頃	東京大学またはオンライン (極地研・東大の合同プロジェクトの研究会として交互開催しており、2024年度は東大で開催予定)
4	太陽地球系物理学分野のデータ解析手法、ツールの理解と応用	今城 峻	京都大学	理学研究科附属地磁気世界資料解析センター	助教	宙空圏	富川喜弘、田中良昌	2025年9月16～19日(内2日間)	電気通信大学(4集会合同のため)
5	STE研究連絡会現象報告会および現象解析ワークショップ(極域を軸とする磁気圏・電離圏プラズマ、超高層大気変動の相互作用)	西谷 望	名古屋大学	宇宙地球環境研究所	准教授	宙空圏	片岡龍峰、小川泰信、行松 彰	R8.3.4	九州大学(プラズマ圏研究集会および極域・中緯度 SuperDARN研究集会と共同開催に向けて準備中であるため、予定)
6	SuperDARN研究集会	行松 彰	国立極地研究所	共同研究推進系	准教授	宙空圏	行松 彰	2026/03/04～2026/03/06	九州大学(オンライン併用開催)(共同主催機関の持回りを原則として例年開催しており、また、極地研・名古屋大共催「STE(太陽地球環境)現象報告会」および名古屋大主催研究集会「プラズマ圏の観測とモデリング」(いずれも申請中)との合同開催を計画し、主催者間の協議の結果、今年度は上記での開催を希望する。)
7	2025年度エアロゾル・雲・降水に関する研究集会	荒木 健太郎	気象庁気象研究所	台風・災害気象研究部第二研究室	主任研究官	気水圏	當房 豊	2026年2月上旬	国立極地研究所
8	南極ドームふじアイスコアに関する研究集会	中澤 文男	国立極地研究所	気水圏研究グループ	准教授	気水圏	中澤文男	令和7年10月7～8日	国立極地研究所
9	2025年度 地上・衛星受信データからみる両極氷床上の降雪現象と表面融解にかんする研究集会	鈴木 香寿恵	明治大学	大学院	特任准教授	気水圏	平沢 尚彦	令和7年8月1日(金)	国立極地研究所
10	南極エアロゾル研究会	原 圭一郎	福岡大学	理学部	助教	気水圏	平沢尚彦	8月上旬	極地研
11	2025年度南極領域スケール雪氷研究集会	杉浦 幸之助	富山大学	学術研究部都市デザイン学系	教授	気水圏	平沢 尚彦	R8.1.26	国立極地研究所
12	北極海底研究集会	藤井 昌和	国立極地研究所	先端研究推進系地圏研究グループ	助教	地圏	藤井 昌和	令和7年8月または令和8年3月	国立極地研究所
13	海氷下における魚類の行動・生態の解明	宮本 佳則	東京海洋大学	海洋資源エネルギー学部門	教授	生物圏	高橋 晃周	R7.6.6	極地研究所
14	冷水性翼足類ハダカメガイ属の体構成成分分析とバイオアッセイ実験の確立に関する研究集会	高橋 邦夫	国立極地研究所	生物圏研究グループ	准教授	生物圏	高橋邦夫	2025年 10月	国立極地研究所
15	東南極トッテン氷河沖の鉄循環研究に関するワークショップ	漢那 直也	東京大学	大気海洋研究所	助教	生物圏	平譚 享	2025年5月頃	国立極地研究所
16	JARE67-69次一般研究観測課題の打ち合わせ(課題名:凍結・乾燥の影響を受ける南極露岩湿地の生態系観測-環境特性・生物群集・生物量の解明を目指して-)	和田 智竹	東邦大学	理学部生物学科	特任研究員	生物圏	工藤 栄	2025年4月～6月を予定	国立極地研究所
17	クロロフィル可変蛍光法による植物プランクトンの基礎生産推定の超高時空間解像化	吉田 和広	佐賀大学	農学部	助教	生物圏	平譚享	2025年9月11日-12日	国立極地研究所
18	2025年 南極医学医療研究集会	大谷 眞二	鳥取県西部総合事務所 米子保健所		副所長	生物圏	伊村 智	R7.5.16	国立極地研究所 セミナー室